（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、ほぼ、月１回の会議時に、職員皆で唱和している	基本理念については玄関、リビングホール、スタッフルームに掲示し支援方針を明確にしている。月1回のユニット会議の席上唱和をし、共有と実践に繋げている。職員は「利用者の思いを大切に･･･」の理念の持つ意味を理解し、アットホームな雰囲気を大切にして日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大前は、地域の高齢者の集まりや、敬老会にも参加させていただいた。畑の作物の差し入れもある。防火訓練にも参加していただいたことがある。ご近所にAEDの貸し出しもしている。	開設以来、当ホームの顧問が中心となり地域に開かれ密着したホームを目指し活動を続けてきており、区費を納め参加出来る行事には地域の一員として積極的に参加している。平常時であれば年4回開かれる地域の高齢者の集い「鉢伏会」には利用者全員が参加し地域の皆様との交流を深めており、また、地区の文化祭にも「きんもくせいコーナー」を設けていただき作品展示に合わせ見学にも出掛けていたが、今年度は新型コロナの影響を受けを全ての行事が中止となり残念な状況が続いている。新型コロナ収束後にはまた積極的に地域の皆様との交流活動を行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染拡大前は、地域で行われる行事に、利用者と参加させていただき、交流を持っていた。運営推進会議の勉強会に、ご近所の方たちもお誘いした事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット、事故報告など、細かく報告しており、会議出席者の意見もお聞きして、ホーム運営に、生かしている。また、身体的拘束適正化検討委員会の委員も兼ねて頂いている。	例年であれば、利用者代表、家族代表、区長、区分館長、民生児童委員、地域消防団員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で身体拘束適正化委員会を兼ね2ヶ月に1回開催しているが、現在は新型コロナの影響を受け書面での開催としている。運営状況・事故報告、利用状況、鉢伏会について、コロナワクチン接種状況、身体拘束適正化委員会報告等を紙面にし、顧問が会議参加メンバーを訪問して書面を届け、意見を頂き施設運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告など密に連絡し、認定更新時には、担当者へ利用者の暮らしぶりなどを伝え、連携を深めている。	事故報告、コロナ感染対策等必要事項については施設長が市の担当部署に出向き報告と相談を行い連携を深めている。3ヶ月に1回市の介護相談員の来訪があり利用者も楽しみにしているが現在は新型コロナの影響を受け中止の状況が続いている。収束後には再開する予定である。市主催のケアマネージャー勉強会にはケアマネージャーが参加している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応し実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ、月１回行われているユニット会議では、身体的拘束適正化委員会も兼ね、研修も年2回行っている。日中の玄関の施錠は、ほとんど行っていない。	拘束を必要とする利用者もなく拘束のない支援に取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者がいるが気の済むまで話を伺い対応し、玄関は日中開錠されている。夜間の転倒危惧を防ぎトイレ誘導をスムーズに行うためセンサーマットを使用している利用者がいる。2ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会と年2回行う身体拘束勉強会で拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待の話は、スタッフ会議では、話している。身体拘束の研修の際にも勉強はしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほぼスタッフ全員の会議で勉強を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ｹｱﾌﾟﾗﾝの報告、モニタリング等のお話の場や、面会時など、御家族の意見をお聞きし、スタッフ会議や運営会議で報告している。	全利用者意思表示の出来る状況であり、職員は利用者との意思疎通を図ることに心掛け家族の一員として接し希望を受け止めるようにしている。家族の面会は昨年の春以降新型コロナの影響を受け窓越しで短時間での面会を行っている。そのような中、2ヶ月に1回発行される写真入りのお便り「きんもくせいだより」でホームの様子をお知らせしている。また、利用者一人ひとりのホームでの様子についての報告を毎月の請求書に同封しお届けしている。合わせてメールやLINEでもその都度状況をお知らせし家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ月１回会議を開き、意見を聞くようにしている。	基本的には月1回ユニット会議を行い、利用者一人ひとりのケアについて意見交換をし、身体拘束適正化委員会も行い支援の向上に繋げている。また、施設長は常日頃より職員と話をする時間を設け意見を吸い上げるようにしている。職員は年間目標を設定し、年2回賞与の時期に合わせ自己評価を行い、施設長による個人面談も行いもモチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ⅰを取得する為、キャリアパス要件Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの要件を満たし、職場環境（資格取得支援・研修受講・介護機器導入・ミーティング・非正規から正規職員へ）の整備に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部やリモートで研修を受けたり、内部研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力していただいている他のグループホームはあるが、スタッフ同士の交流は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、サービス利用について相談を受けた場合、必ずご本人と面談させていただき、ご本人を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労や困っていることなどお聞きして、次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要なサービスにつなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、自立支援を第一に考えるように話している。利用者に得意分野で力を発揮していただき、感謝するという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大前は、ご家族に、誕生会に出席していただいたりした。基本、受診は、ご家族にお願いしている。ご利用者様の不安・混乱等大きい場合は、面会に来ていただいたり、電話をかけてお話して頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、友人などが面会（コロナ感染拡大前）にいらしたら、また来ていただけるよう声かけしている。	平常時であれば友人、知人の来訪がありお茶をお出し寛いで頂いているが、現在は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いている。そのような中、家族と手紙や電話のやり取りをされてる方もいる。年末には職員の手助けで手作り年賀状を作成し、家族に発送しており喜ばれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は、スタッフも一緒に多くの会話をもつようにしたり、トラブルになった時は、個別に話を聞いて、スタッフが調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさった利用者の所にスタッフが訪問して様子を伺ったり、御本人、家族を激励したこともあった。お家で採れた林檎など差し入れて貰った事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録、日々、お話して会話していく中からの気付き、アセスメントを通じ本人の思いの把握に努めている。	全利用者が意思表示の出来る状況である。元気な方も多くおり職員の支援を受けながら「掃除」「洗濯物たたみ」「食器拭き」等、家に居た時のように自由な生活を送っている。そのような中、朝の起床時間については強要するのでなく、出来るだけ利用者の思いのままの行動に任せるよう心掛けている。日々の気づいた言動等は業務日誌や連絡ノートに纏め、出勤時に確認し意向に沿った支援に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方を把握し、新しいことの挑戦でなく、日々の中から、馴染みの暮らし方を継続する様に努めている。気になる言動がある時は、生活歴との関連性を考え把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、看護記録、支援内容確認書から一人一人の状態を把握し、自分の印象だけでなく、他のスタッフからも意見を聞いたりして、その人に合った対応をするように努力している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族の意向を聴取し、管理者、介護員の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。新しい計画より継続できる計画を考えるようにしている。	職員は1～2名の利用者を担当し日々の状況を把握し、支援内容確認書(食事、排泄、移動、歩行、医療、コミュニケーション等)作成をしている。更新時に合わせケアマネージャーが担当職員の意見も聞きながらモニタリングを行いプラン作成を行っている。家族の意向は更新時にお聞きしプランの中に反映させるようにしている。基本的には6ヶ月に1回のプラン見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々体調を観察し、支援の結果を介護記録に記録、支援の見直し、介護計画に反映させている。ユニット会議や業務日誌等で情報を共有し、見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染拡大前は、地区のミニデイサービスに参加し、市民が活用している大浴場（外湯）に入浴した利用者もいた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地区の敬老会、年4回、地区のミニデイサービスに参加し、地区住民と交流を図っている。又、地区の文化祭にも出品し、施設の存在をピーアールしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解のもと、かかりつけ医、協力医に受診、往診をうけている。以前は、３人の医師が往診していた事があった。	入居時に医療機関についての説明を行い希望を聞いている。現在はホーム協力医の月1回の往診対応の方が三分の二、入居前からのかかりつけ医の受診対応の方が三分の一で家族がお連れしている。ホームの非常勤看護師の勤務が週1～2回あり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携を取り万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じ協力歯科医の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さない様早期発見に取り組んでいる。気が付いたことがあれば、看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供し、退院時には、早期に出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を提出し、看取りを行っている。看取りを行い、お亡くなりになったご利用者様、ご家族様から、色々な事を教わった。主治医、地域の訪問看護ステーション、ホームのナース、介護スタッフ、ご家族と連携を取り、チームで支援した。	重度化や終末期に向けた指針があり利用契約時に説明している。体調に変化が見られ終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの機会を持ち家族の意向を確認の上、医師の指示の下、家族が訪問看護師と個人契約を結び看取り支援に取り組んでいる。開設以来3名の看取りを行い、家族も居室に泊まり込み最期の時を過ごされたことがあり感謝の言葉を頂いている。また、看取り支援に入る前には非常勤看護師が講師となり看取り研修を行い万全な支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は、整備されている。ほぼスタッフ全員が普通救命講習を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前、夜間を想定した訓練を実施し、地域の消防団や、近隣住民も訓練に参加した。毎月1日に避難訓練を行っている。土砂災害の避難訓練も行っている。	例年であれば年1回は消防署員参加の下防災訓練を行っている。また、当ホームのある地域が市の土砂災害避難地域に指定されており月1回は全利用者参加で火災想定、地震想定の避難訓練を行っている。合わせて職員間で「消火」「通報」「避難」の担当を決め防災意識を高め取り組んでいる。備蓄については「水」「お米」「レトルト食品」「カップラーメン」等が3日分準備されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の人格の尊重とプライバシーの確保を心掛けている。特にプライドの高い方や、男性利用者への言葉がけには気を配っている。	家族の一員として親しみを込め接するよう心掛けている。「連れ合いの生前に関する事柄に付いては状況に応じ話しする様にしている。トイレ誘導の声掛けは周りにわからないよう気配りをしている。呼び方については希望をお聞きし、名前、苗字を「さん」付けでお呼びし、「お父さん」「お母さん」と呼ぶケースもあるが「ちゃん」付けはしないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様、配慮している。表出のない方は、選択肢を提示して自己決定を促している。利用者の相談など、気軽に話せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定番のリズムに沿って支援してしまっている面はあるが、希望がある場合は、無理強いせず、希望に耳を傾ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整容が難しい方の支援を怠らないよう心掛けている。「似合いますね。素敵ですね。」など利用者が喜んで笑顔になれるよう言葉をかけ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に出来る仕事をお願いして、役立つことの喜びを感じて頂き、利用者とスタッフが、一緒に楽しく食事している。一人一人の食事量や好き嫌いに配慮している。咳込み、飲込みなども注意している。	大半の利用者が自立しており、若干名の利用者が一部介助という状況である。献立は朝食、夕食は季節感に配慮された配食会社の食材を用い職員が調理し提供している。昼食については仕出し屋の副食にご飯と汁物を職員が調理してお出ししている。利用者も食器拭きを中心にお手伝いに積極的に参加している。また、土用の丑の日や年度末には「鰻」をテイクアウトして楽しんでいる。合わせてお彼岸やお盆等には「おはぎ」や「柏餅」を作り季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いにならない程度に、食べ残しの摂取を促したり、水分摂取の促しをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間の義歯の洗浄や介助が必要な方は、口腔ケアは行っているが、ご自分で歯を磨かれている方は、声かけにとどまっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ、なるべく排泄の自立にむけ支援している。家族の金銭的な負担を減らすためリハビリパンツの代わりに洗い替え出来るパンツを使っている人もいる。無駄のないパット使用に心掛けている。	自立の方は若干名で、一部介助の方が三分の二強となっている。夜間のみ、おむつ使用の方が三分の一ほどいる。排泄表を用い個々のパターンを把握し、それに合わせ「パットが濡れる前」の2～3時間おきに声掛けしトイレ誘導を行い、消耗品の費用削減と自立支援に繋げている。また、お茶、スポーツドリンク等の水分摂取にも積極的に取り組み排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と散歩、水分補給の徹底、野菜や果物も摂取するようにしている。トイレ時お腹のマッサージを声掛けしたり、こちらで行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その中で時間帯等は希望を聞いている。入浴中、後も笑顔で喜んで頂ける様、会話にも配慮している。	一部介助の方が三分の二おり、全介助でリフト浴使用の方が三分の一という状況である。入浴拒否の方もなく週2回の入浴を行っている。例年であれば年1回、2月に行われる地区のミニデイサービスで市の「ふれあいの湯」に入浴に出掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整える様努めている。リネン交換も定期的に行い、布団干しも行っている。眠れない利用者には、飲み物等出し、ゆっくり話を聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容や副作用までは理解していないが、誤薬がないよう3回チェックし、服薬時は、飲み込むまで確認している。薬の変更時は、特に、確認を怠らない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクレーション（歌、トランプ、かるた、しりとり、塗り絵、ボール投げなど）や食事の手伝い、洗濯物たたみなどしていただいている。干し柿、ほうば巻、柏餅作りも行った。縫い物や書写、俳句作り等得意な事も行える様支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩は行っているが、コロナ感染拡大で、ドライブ、地域の行事など参加出来ていない。	外出時、歩行器・シルバーカー使用が三分の二、車いす使用の方が三分の一という状況である。楽しく歩くことで歩行機能の維持に引き続き取り組んでおり、天気の良い日には近くのバラ園まで30分～40分の時間をかけ散歩を楽しんでいる。合わせてテラスに出てお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。新型コロナの影響を受け外出の自粛状態が続いているが、春には近くの運動公園まで全員で桜の花見に出掛け楽しいひと時を過ごしたという。コロナ収束後には季節に合わせた外出レクリェーションを再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族から預かり、必要なものが買えるよう支援はしているが、本人が使えるようには支援出来ていない。買い物支援はコロナのため、今は出来ていない。が、以前は出かけた時は、希望の物を購入し、その時は、ご本人にお金を払っていただいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話はしていただいている。ただし、家族の迷惑にならない時間帯にしている。毎年、年賀状は、家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を置いたり、壁には、季節ごとの飾りつけをしている。温度や湿度にも配慮している。	一般家庭の趣が感じられる門扉で、玄関を入ると綺麗に飾られた季節の花が迎えてくれる。一日の大半を過ごすリビングホールは陽当たりも良く、広々としたスペースが確保されている。壁には毎年地域の文化祭に出品している利用者の作品や日頃の様子を写した写真が数多く飾られている。また、毎年年始に行う漢字一文字で表した「夢」の色紙が飾られ、活動の様子を窺うことができる。更に庭先には広々とした畑もあり夏野菜の栽培を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や本を読んだり、談話室でテレビを観たり、穏やかに、仲良く過ごせるように、雰囲気作りをしている。夏期には、テラスが活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご家族が用意してくださり、写真や思い出のものなど持ち込まれている。利用者に危険のないような配置を心掛けている。	各居室とも掃除が行き届き清潔感が漂っている。居室への持ち込みは自由で、家族と相談をし使い慣れたタンス、イス、テーブル等を持ち込みその人らしい生活の場が作られている。壁には壁掛けフックが設けられ洋服が綺麗に整理されている。家族の写真や職員から贈られた誕生日のお祝いカード等に囲まれ利用者が思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけ、トイレは大きな字で表示している。ポスター等も貼って注意したほうが良い事などお知らせしている。		